第１回敷島エリアグランドデザイン有識者意見交換会　議事要旨

日時：令和３年１月27日（水）13時30分
場所：群馬県議会庁舎　203会議室

１．開会

２．あいさつ、自己紹介

３．意見交換

事務局　：事務局から敷島エリア並びにグランドデザインの策定プロセスについて説明。

敷島エリアグランドデザインは、敷島エリアの価値の向上を図るため、概ね５０年先の将来のあるべき姿を示すための指針を作成することを目的としております。

テーマごとに前橋市と群馬県で構成する庁内検討会で協議し、それについて、今回の有識者の委員の皆様で構成する意見交換会での意見を反映して、まとめていくプロセスで進めていくこととしております。

この庁内検討会、意見交換会をそれぞれ４回開催し、市民意見を取り入れながら、８月までにグランドデザインをまとめていきたいと考えております。

本日は、敷島エリアグランドデザイン策定に向けて全般的な意見をいただき、それをもとに次回の第２回の庁内検討会で敷島エリアのコンセプトや将来像を検討していきたと考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

事務局　：本日は、今後の検討に向け、ご意見をいただきたい。

委員Ａ　：敷島エリアは広さがあり、今ある緑とスポーツ施設を組み合わせることで非常にポテンシャルが高くなるエリアであると思っている。また、民活にもチャレンジしている。今後のグランドデザインを考える上では、都心立地ではないことから、民活に全て依拠するのは難しいと思うが、群馬県エリアと前橋市エリアが分断することなく、一体の公園として議論することが大事。例えば、学びなのか、教育なのか、健康なのか、地域に寄り添ったキーワードやコンセプトを最初に決めていけると、それに沿った議論が深掘りできていくように思う。そのような議論方法を採ることで方針もぶれなくなるのではないだろうか。

委員Ｂ　：50年先の敷島エリアの価値を向上させるための「あるべき姿」とあるが、どういった観点からの価値向上ということで捉えているか。

事務局　：県エリアは、水泳場の建替を予定しており、陸上競技場や野球場等のその他施設も、将来改修が必要となった時、ある程度一体性のある統一のデザインコンセプトが必要、ということで50年先という表現としている。

価値の向上ということだが、県のエリアにある運動施設や、隣接する市の敷島公園を統一コンセプトで一体的に捉えることで、敷島エリアに観光や運動する方が集い、賑わいが創出され、公園そのものの価値が上がっていく。また、このような価値向上により、前橋中心市街地を訪れた方が、公園に目を向けることとなり、都市内公園という形で連携し、まちなかの活性にも寄与できるのではないか、という意味で、価値向上につながると考えている。

委員Ｂ　：公園の価値というのは、市内、県内の利用者の方にとっての価値と考えていく、といのがベースになると思う。前橋市は、首都圏から 100km ぐらいの立地にあるので、2 拠点居住、リアルライフという意味でポテンシャルのある立地。東京から訪れたときの利用パターン、例えば働きながら運動する等、県外からの利用価値という論点も長期的な価値向上という観点では有意義ではないか。

委員Ｃ　：もともと都市公園や都市緑地は、近代都市が成立する過程での急速な都市化に対して、感染症を防ぎ健康的な生活環境を提供すると同時に、治水や防災など都市に必要不可欠な複合的な機能を担保するインフラとして整備されてきた経緯がある。今、新型コロナウィルスが広く世界中に蔓延し、想定外の自然災害等も多発する事態が起きるなかで、改めて都市公園や都市緑地の意義を捉え直し、新しい形でどのように引き継いでいけるのか、あるいは発展させていけるのか、ということを考える時期に来た、と捉えている。

敷島公園はそのモデルケースとして、ある意味、世界や日本に対し、これからの都市公園、都市緑地のあり方を示唆するようなものになっていくのではないか、と期待している。

それには、敷島公園エリアだけをみるのではなく、県全体や市全域、場合によっては首都圏など、広く地域のなかでの位置付けや機能を見直すことが必要だと考える。

委員Ｄ　：敷島公園自体は非常に歴史があり、その時々の目的に合わせて施設ができ、段々今の形態になってきた。そういう意味で、地域の方々から、敷島公園と言ったらこれ、と思っているものは人それぞれいろいろある中で、「活かす価値」というものをきちんと見極め、手を入れる入れないということでなく、きちんと魅力を引き立たせていくような仕掛けが必要。

活かす価値に対して「加える価値」があると考えられ、物理的に形が変わる、新しい物を作る、場所を作る、という価値も「加える価値」に入る。また、次の時代を考えた時、目に見えないサービス、例えば、デジタル化やスマートシティと言われるサービスインフラも、このような公園や様々な施設の利活用に関して非常に重要な機能を果たすと考えている。

委員Ｅ　：(アーバンデザインをはじめとする) まちづくりに取り組んでいる前橋市の取り組みと、この公園の位置付をより全体的に、赤城山も含めて広い視点での敷島公園の位置付けを議論するのも良いと感じる。

50 年後を見据え、前橋市が今取り組もうとしているスーパーシティや、デジタル的なサービスインフラ、公園のどこでも Wi－Fi がつながる、顔パスで中心市街地からバスで敷島公園まで来れる、小銭や財布を持たなくても公園に行ける、というような移動の軽さというのも未来志向で考える際には必要。

委員Ａ　：敷島エリアを周辺の広いエリアまで含め、どのようなキーワードやコンセプトで敷島エリアの 50 年後の価値創造を目指していくか、というビジョンやコンセプトを次回議論するが、以降の議論が楽になるように思う。

委員Ｆ　：新型コロナウィルスで、今までの社会的な現象や生活様式が大きく変わる中、新しくデジタル化も含めた形に変えていく部分と、今までのものを残し守らねばならない部分もあり、リアルとデジタルの使い分けが必要。

敷島公園一帯は、スポーツや健康関連のものが多くあり、前橋市民だけでなく、全国からスポーツをするために来園する。また、ボート池等、観光コンベンションという観点から都市型観光の中心となる部分は守っていくべきで、全体を俯瞰する中でどのようなシンボ

ル的なゾーンにしていくか、という議論が必要。

前橋を象徴する水と緑と詩のまちの部分を体験できるものを街の中にも広げ、クリエイティブな人材が街の中で働いたり、買い物をしたり、楽しんだり、というのがグリーン&リラックスの根本で、それらと連携できるようなものができるといい。市がアーバンデザインというデザイン都市を目指しており、新しい視点でのまちづくりにより、若い人たちに人気のあるスポットになっていくだろう。

敷島公園にはホテルもあり、経営する方がボート池も管理している。今後、このような民間の力とも協力し、来園者が飲食等、様々な楽しめる場づくりも考えつつ、お互いに相乗効果を上げられるような仕組みがあるといい。

事務局　：群馬県の中に前橋市があり、1 つ 1 つの諸施設を捉えるというよりも、敷島エリア全体という、広い中で捉え、それをどう 50 年先も含めて生かしていくのか、という共通の観点からご意見をいただいた。次回までに事務局でご意見を整理したい。

４．その他

５．閉会

以上